

部分分数分解

数列の Σ 計算や積分の計算など、複雑な分数式を部分分数分解して解を求める場合がよくある。ここでは、部分分数分解の幾つかの方法を紹介する。

[例題 1] 次の分数式を部分分数に分解しなさい。

$$\frac{1}{k(k+2)}$$

(解答 1) 分母を払って恒等式を解く

$$\frac{1}{k(k+2)} = \frac{a}{k} + \frac{b}{k+2} \cdots \textcircled{1}$$

とおいて両辺に $k(k+2)$ をかけると

$$1 = a(k+2) + bk \cdots \textcircled{2}$$

これは k についての恒等式なので、数値代入法か、係数比較法で解く。

<係数比較法>

②式を k について整理

$$1 = (a+b)k + 2a$$

両辺の係数を比較して

$$a+b=0, \quad 2a=1$$

これより、

$$a = \frac{1}{2}, \quad b = -\frac{1}{2}$$

なので①式は

$$\frac{1}{k(k+2)} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right)$$

<数値代入法>

②式の k に、 $k=0$ を代入すると $1=2a$

よって、 $a = \frac{1}{2}$

②式の k に、 $k=-2$ を代入すると $1=-2b$

よって、 $b = -\frac{1}{2}$

①式は

$$\frac{1}{k(k+2)} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right) \cdots \textcircled{1}$$

逆にこのとき①式は、すべての k で成り立つ。

(解答 2) 一部の分母を払って、恒等式を数値代入法で解く

$$\frac{1}{k(k+2)} = \frac{a}{k} + \frac{b}{k+2} \cdots \textcircled{1}$$

とする。①の両辺に k をかけて ←

$$\frac{1}{k+2} = a + \frac{bk}{k+2}$$

k についての恒等式なので、 $k=0$ を代入すると、 $a = \frac{1}{2}$

次に、①の両辺に $k+2$ をかけて、

$$\frac{1}{k} = \frac{a(k+2)}{k} + b$$

k についての恒等式なので、 $k=-2$ を代入すると、 $b = -\frac{1}{2}$

よって①は

$$\frac{1}{k(k+2)} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right)$$

逆にこの a 、 b のとき、すべての k で成り立つ。

Point !

値を求めたい文字の分母を払う。

(解答3) 等式 $\frac{1}{AB} = \frac{1}{B-A} \left(\frac{1}{A} - \frac{1}{B} \right)$ の利用

$$\begin{aligned} \frac{1}{k(k+2)} &= \frac{1}{(k+2)-k} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right) \end{aligned}$$

Point !

この等式を活用できればかなり簡単に求められる。検算にも有効。

[例題2] 次の分数式を部分分数に分解しなさい。

$$\frac{1}{k(k+1)(k+2)}$$

(解答1) 分母を払って恒等式を解く

$$\frac{1}{k(k+1)(k+2)} = \frac{a}{k(k+1)} + \frac{b}{(k+1)(k+2)} \dots \textcircled{1}$$

とする。①式の両辺に $k(k+1)(k+2)$ をかけて、

$$1 = a(k+2) + bk \dots \textcircled{2}$$

これは k についての恒等式なので、数値代入法か、係数比較法で解く。

<係数比較法>

②式を k について整理

$$1 = (a+b)k + 2a$$

両辺の係数を比較して

$$a+b=0, \quad 2a=1$$

これより、

$$a = \frac{1}{2}, \quad b = -\frac{1}{2}$$

なので①式は

$$\begin{aligned} \frac{1}{k(k+1)(k+2)} &= \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{k(k+1)} - \frac{1}{(k+1)(k+2)} \right\} \end{aligned}$$

<数値代入法>

②式の k に、 $k=0$ を代入すると $1=2a$

よって、 $a = \frac{1}{2}$

②式の k に、 $k=-2$ を代入すると $1=-2b$

よって、 $b = -\frac{1}{2}$

①式は

$$\begin{aligned} \frac{1}{k(k+1)(k+2)} &= \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{k(k+1)} - \frac{1}{(k+1)(k+2)} \right\} \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

逆にこのとき①式は、すべての k で成り立つ。

(解答2) 一部の分母を払って、恒等式を数値代入法で解く

$$\frac{1}{k(k+1)(k+2)} = \frac{a}{k(k+1)} + \frac{b}{(k+1)(k+2)} \dots \textcircled{1}$$

とする。①式の両辺に $k(k+1)$ をかけて

$$\frac{1}{k+2} = a + \frac{bk}{k+2}$$

k についての恒等式なので、 $k=0$ を代入すると、 $a = \frac{1}{2}$

①式の両辺に $(k+1)(k+2)$ をかけて

$$\frac{1}{k} = \frac{a(k+2)}{k} + b$$

k についての恒等式なので、 $k = -2$ を代入すると、 $b = -\frac{1}{2}$

①式は

$$\frac{1}{k(k+1)(k+2)} = \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{k(k+1)} - \frac{1}{(k+1)(k+2)} \right\} \cdots \textcircled{1}$$

逆にこの a, b のとき、すべての k で成り立つ。

(解答 3) $\frac{1}{k(k+2)} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right)$ の利用

$$\begin{aligned} \frac{1}{k(k+1)(k+2)} &= \frac{1}{k+1} \cdot \frac{1}{k(k+2)} \\ &= \frac{1}{k+1} \cdot \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{k(k+1)} - \frac{1}{(k+1)(k+2)} \right\} \end{aligned}$$

Point !

$k(k+1) \cdots (k+n)$ のように、どれだけ式が長くなっても、両端の k と $k+n$ だけに注目し、部分分数分解すればよい。

[例題 3] 次の分数式を部分分数に分解しなさい。

$$\frac{1}{x^2(x-1)}$$

(解答 1) 分母を払って恒等式を解く

$$\frac{1}{x^2(x-1)} = \frac{a}{x} + \frac{b}{x^2} + \frac{c}{x-1} \cdots \textcircled{1}$$

とする。①式の両辺に $x^2(x-1)$ をかけて、

$$1 = ax(x-1) + b(x-1) + cx^2 \cdots \textcircled{2}$$

これは x についての恒等式なので、数値代入法か、係数比較法で解く。

<係数比較法>

②式を x について整理

$$1 = (a+c)x^2 + (-a+b)x - b$$

両辺の係数を比較して

$$a+c=0, \quad -a+b=0, \quad -b=1$$

これより、

$$a=-1, \quad b=-1, \quad c=1$$

なので①式は

$$\begin{aligned} \frac{1}{x^2(x-1)} &= -\frac{1}{x} - \frac{1}{x^2} + \frac{1}{x-1} \end{aligned}$$

<数値代入法>

②式の x に、 $x=0$ を代入すると $b=-1$

x に、 $x=1$ を代入すると $c=1$

x に、 $x=-1$ を代入すると

$$2a-2b+c=1$$

よって、 $a=-1$

①式は

$$\begin{aligned} \frac{1}{x^2(x-1)} &= -\frac{1}{x} - \frac{1}{x^2} + \frac{1}{x-1} \end{aligned}$$

逆にこのとき①式は、すべての x で成り立つ。

(解答2) 一部の分母を払って、恒等式を数値代入法で解く

$$\frac{1}{x^2(x-1)} = \frac{a}{x} + \frac{b}{x^2} + \frac{c}{x-1} \cdots \textcircled{1}$$

とする。①式の両辺に x^2 をかけて

$$\frac{1}{x-1} = ax + b + \frac{cx^2}{x-1}$$

x についての恒等式なので、 $x=0$ を代入すると、 $b=-1$

次に、①式の両辺に $x-1$ をかけて

$$\frac{1}{x^2} = \frac{a(x-1)}{x} + \frac{b(x-1)}{x^2} + c$$

x についての恒等式なので、 $x=1$ を代入すると、 $c=1$

①式の x に、 $x=-1$ を代入すると

$$-\frac{1}{2} = -a + b - \frac{c}{2}$$

よって、 $a=-1$

①式は

$$\frac{1}{x^2(x-1)} = -\frac{1}{x} - \frac{1}{x^2} + \frac{1}{x-1}$$

逆にこのとき①式は、すべての x で成り立つ。

(解答3) $\frac{1}{x(x-1)} = \frac{1}{x} - \frac{1}{x-1}$ の利用

$$\begin{aligned} \frac{1}{x^2(x-1)} &= \frac{1}{x} \cdot \frac{1}{x(x-1)} \\ &= \frac{1}{x} \cdot \frac{1}{(x-1)-x} \left(\frac{1}{x} - \frac{1}{x-1} \right) \\ &= -\frac{1}{x} \left(\frac{1}{x} - \frac{1}{x-1} \right) \\ &= -\frac{1}{x^2} + \frac{1}{x(x-1)} \\ &= -\frac{1}{x^2} - \left(\frac{1}{x} - \frac{1}{x-1} \right) \\ &= -\frac{1}{x} - \frac{1}{x^2} + \frac{1}{x-1} \end{aligned}$$